

## 第12回わいがやトーク 「下水道の『?』と『!』」

国土交通省下水道部下水道企画課・頼あゆみ課長

<頼課長ってどんな人?>

- 兵庫県西宮市生まれ。
- お父様（故人）が土木屋さんだった関係で、家にはいつもゼネコンのカレンダー。図面に囲まれた暮らし。
- 水に関して記憶に残っているのは、大阪府八尾市を流れる大和川や玉串川。玉串川は当時、ドブ川だった。
- 大学進学と同時に上京。最初に住んだのが本郷給水場公苑の近く。
- 現在は東村山市在住。周辺には多摩湖や浄水場、水道道路と呼ばれる道路が走っていて、水に縁を感じている。
- お子さんを通じ、ご近所づきあいにも積極的に参加。
- 建設省に入省後の仕事（法律職）は、都市計画、住宅政策・住宅ローンに関する広報や広告（住宅金融支援機構）、関東の河川管理や全国の水利権、5つめの全国総合開発計画（旧・国土庁）など。
- 育児休暇をとって専業主婦を経験。イギリスで暮らしたことも。

<広報・広告に従事した経験について>

- 住宅金融支援機構時代、広報・広告の仕事を通じて感じたのは、CMを放送することによって職員のモチベーションが高まること。「お父さんの仕事はこれだ」と、家族に胸を張って言えることが大きい。
- また、リクルート面でも効果があった。
- そして何よりも痛感したのは、CMコピーやサウンドロゴの“凄さ”。

**【住宅金融支援機構が目標にしたのは、ニトリのCMコピー】**

「お値段以上、ニトリ」。この短いコピーで中身も分かるし、ニトリの名前も覚えてもらえる。

住宅金融支援機構のコピーは、「金利が変わらない安心」や「ずっと固定金利の安心」。子供が知らないうちに、テレビで流れるこのコピーを覚えていた。（刷り込みの効果）

**【頼課長が考えた下水道のコピー】**



あなたの暮らしにつながっている  
循環のみち 下水道

### <下水道の「！」と「？」>

- 下水道部に来て最大の驚きは、「下水道界」という言葉が、日常的に使われていること。  
これまで関わってきた建設や住宅は、いずれも建設業界、住宅業界。  
これに対して、「界」が使われるのは、プロ野球界や芸能界など。  
そう考えると、「下水道ってすごい一家！」と率直に思った。
- 下水道職員健康駅伝大会にも驚いた。マニアックなネーミングであることもさることながら、農水省・国土交通省・環境省が「都道府県構想マニュアル事務局」というチームで出場したりしているのを見て、すごい世界だと感じた。
- 下水道の関係者は、何ごとも自らを「縁の下の力持ち」に位置付けてしまいがち（アピールを控えているようにさえ感じる）  
子どものサッカーでお世話になっているグラウンドが、実は水再生センターだったことに最近気づいた。（利用者にアピールが届いていない）
- その他の「！」  
水処理のハイテクと微生物処理  
多様な施設や技術と目的等の混在  
資源・エネルギー利用なんてやっていたんだ！  
こんなに国際展開指向だったの？！  
浸水対策が下水道の仕事であることを再確認
- 下水道の「？」  
土木学会等では水質や水処理の話が中心になっている（偏っている）ように感じる。  
管路のネットワーク論、プランニング論等がまだあまり語られていないように感じる。

### <チャームアップ下水道>

- 処理場以外で頑張っているところも国民に見てもらいたい！
- 下水道の機能、システム全体を分かってもらいたい。
- アピールポイントは、家庭や職場から“つながっている”こと！そして、「もし下水道が使えなくなったら・・・」、これを考えてほしい。
- 親子をターゲットにして、体験型で！（親も、先生も一緒に考える）

### <頼課長からの提案>

- 「下水の旅 追跡ツアー」  
出発前に、まずトイレ。  
集合場所に一番近いマンホール蓋を開ける。  
そこから処理場まで管路をたどり、流したものがどうなるか考えてもらう。  
処理場で終わりではなく、河川への放流まで見てもらう。
- そのほか、下水道の巨大すごろく、下水の旅の疑似体験など。

<下水道も名称変更？>

- 名称変更が難しければ、通称でもいい。  
例えば、全日本空輸株式会社は社名で呼ばずに、ほとんどの人が「ANA」と呼ぶ。  
下水道に良い通称は付けられないか。
- あるいは、サブタイトルを付けられないか。
- ネーミングの魔法。例えば、国土交通省緊急災害対策派遣隊をTEC-FORCE（テック・フォース）と呼び始めたところ、希望者が増えた。

<下水道展の手提げ袋>

- 下水道展の手提げ袋をもらって、破れるまで使っている。今は3代目。
- なぜか。それは、人から「それ何？」と聞かれることで“下水道を語る機会”を作っている。
- このように、ちょっと興味をそそられる、ちょっと洒落ているグッズがあると、アピールしやすくなる。

(以上)



頼課長



破れるまで使って、現在三代目  
(写真は二代目の袋)